

私のちいさなよっしゃ！

1. 入れ歯は「ごはんを食べるためのもの」だけじゃない「自立支援ツール」だ！賞	
投稿者	M.N 様
プロフィール	2008年入職 グループホームCW
タイトル	歯のある幸せ「私きれい？」
内容	<p>体調不良から歯茎が痩せ、義歯が合わず、外したままの生活が長年続いている。ご本人は、単語が時折出てくる程度の発語であるものの、毎日、何気ない言葉をかけたり手を振って合図を送っていると、表情が豊かになり、発語に活力を感じるようになった。そんな様子から、歯があればどのようにかわるのだろうかとの思いが自分の中で沸き上がり、義歯が合わないことも承知しながら、「付けてみる？」と尋ねると「つける」と即答され、実際に装着してもらおうと鏡に映った「歯が入った顔」をしばらくうっとり見ておられた。</p> <p>もちろん合わない義歯は口を開けるたびにぐらつき、装着剤程度では安定せず、外したほうが食事がすすんだ。何年かぶりに義歯をつけたことが新鮮なだけで、義歯の不具合を改善してまで装着することが本当にご本人様のためになるのかとの思いもよぎり、スタッフに相談をなげかけた。</p> <p>主任や栄養士、看護師から、「いいんじゃない」「リハビリとして活気アップや今の状態を維持することも大事」などの言葉ももらい救われた気持ちになった。</p> <p>ぐらついた歯のままでも鏡の前で笑顔で髪をとかしておられるご様子がとても幸せそうに見える。今後、義歯調整をして、装着しての食事を目標としたいが、他にもご本人が幸せと感じてもらえることを探していきたい。そのように思いついたことをすぐに試すことができる環境に感謝し、ご利用者の自立支援にむけて幸せそうな顔を見ることができよっしゃ！でした。</p>
評	<p>ご本人からの主訴や、課題が明確に表出されて初めて取り組みを開始することが多いが、何かご本人のためにしてあげたいという気持ちで、観察を継続し新たな取り組みを開始されていることが、利用者職員自身の喜びにつながっている。</p> <p>新しい取り組みをすることは、業務負担や、自分がしてあげたいと感じることが必要なことなのかと考えてしまい、やってみたいと発言するのも、実行するのも勇気を必要とする。一人で走り出すのではなく、思いをくみ取って賛同してくれる周囲のスタッフがいることに感謝であり、そのようにして支えられているからこそ利用者にも喜んでいただけるケアが思い切ることができるという喜びが感じられる素敵なおよっしゃ！でした。</p> <p>そのような周囲の環境があるからこそ、次への課題（義歯の調整）も検討でき、さらにご利用者に喜んでいただけるケアを提供したいという意欲につながっている。</p>
あの人のちいさなよっしゃ！	
1. 「ありがとう」という言葉の花も咲かせてくれました賞	
投稿者	T 様
あの人	T.H 様
プロフィール	T様 2020年入職 みのり館2階ケアヘルパー
プロフィール	T.H様 2007年入職 営繕
タイトル	感謝の気持ち
内容	<p>いつも建物の周囲の花の管理をしてくださり、一年中美しいお花を咲かせていただいております。出退勤時に心が癒され、花の生命力に勇気づけられます。これから暑くなりますので手入れをしてくださる時には体に気を付けてください。</p>

評	<p>みんなのために癒しになるお庭の花を維持してくださっている戸毛様に感謝の気持ちでいっぱいです。綺麗な花が咲いていることが当たり前ではなく、誰かが頑張って生み出されていることに気づき、感謝を伝えようとされている谷様のまっすぐな気持ちも感じられる素敵なよっしゃ！です。</p> <p>周囲の人の努力、素晴らしいところ、いいところを見つけようと目を向けて「ありがとう」「助かります」などと感謝の気持ちを伝える「まっすぐなコミュニケーション」を心がけることが、取り組む意欲にも、助け合いの気持ちにも、お互いを認め合い気持ちを伝えあえる関係性にもつながります。言わなくても伝わりあうことなんて限られています。恥ずかしがらずにまっすぐに伝え合うことを意識していきたいと感じさせるよっしゃ！でした。</p>
---	--

アイデアよっしゃ！

1. 関心がアイデアを生み、実践が活力をもたらしました賞	
投稿者	T.N様 取り組みを行ったみのり館1階 樹ユニット
プロフィール	T.N様 2012年入職 みのり館1階主任CW
タイトル	“日課”を“生きがい”に繋げる
内容	<p>自身の財産やお金の使い道を常に心配され、頭の中がそのことでいっぱいという様子のご利用者。心配のあまりに、盗られ妄想もエスカレートし、周囲は敵ばかりというような状況でした。特におひとりのご利用者へ向けた敵視は強く、ユニット会議にて、ご本人の思い込みを修正し続けるのではなく、環境を変えてみてはどうかとの意見からユニット変更をおこなった。</p> <p>意外にも、お金を心配されることがほぼなくなり、落ち着かれた様子がみられたものの、少しずつ発語が減り、活気がなくなり、お部屋の中で寝ているか、自席で何も話さず座っているという心配な状態が見られたので、再度ユニット会議で検討をした。</p> <p>ご本人様の生活の中で楽しんで取り組んでいただけないかと検討する中で、以前より植物を育てたいと話されていたことから、ベランダでガーデニングをするのはどうだろうとのアイデアができました。ベランダにご本人様用のプランターをつくり、毎日水やりをしていただくという日課はありきたりなのかもしれませんが、ご本人様は「水やりしなくっちゃ」と以前のような活気が見られ始め、あれもしなくっちゃ、これもしなくっちゃと活き活きとされている様子が見られ始めました。</p> <p>職員がご本人様とコミュニケーションを図り観察していたことが、ご本人様が楽しめる、嬉しいと思える的確なアイデアにつながったと思っています。</p>
評	<p>今やっていることを疑問なくそのまま行こうとすればそのまま通りすぎることもできますが、その人にとってこれでいいのかと考えることで、違う視点からのアイデアが生まれ、動きだすことができると感じさせてくれるよっしゃ！です。</p> <p>スタッフそれぞれが日々の中で、ご本人の何気ない言葉をひらい、この人にとってを考える視点があつたからこそ、会議の中で共通認識と目標をきめ取り組みができたのではないのでしょうか。また、課題や目標の共通認識ができていたからこそ、継続してご本人様のご様子に注意をむけることができ、一度決めたことがすべてではなく、「この人にとって」を繰り返し検討することができたとも感じます。業務に追われ、流してしまいがちで、忘れがちな視点であり、簡単なようできないことです。</p> <p>「この人にとって」を考えたことは、ありきたりではなく、その人が望まれていることに近づける素敵なアイデアであり、そのような視点でその人の生活にみんなで思いをはせる時間がもてること、みんなでやろうと行動できることが、みんなでよっしゃ！と感ずることができる、これこそがチームとする仕事の楽しみ、やりがいである素晴らしいよっしゃ！だと思います。</p>

総評	<p>「ちいさなよっしゃ！プロジェクト」を始めたのは、私たちの福祉や介護のしごとのおもしろさややりがいを、まさにそれを感じたときの具体的なエピソードを言語化することで、スタッフ間で共有するとともに外に向けて発信したいという狙いがありました。しかし続けるうちに、それらとは別の、あるいはそれ以上の効果もあることがわかってきました。</p> <p>自立支援とは何か、自分らしく暮らすということの意味はどこにあるのか。それは自分自身への関心から始まるのではないかと、「ちいさなよっしゃ！プロジェクト」は教えてくれました。</p> <p>そしてご利用者の自分自信への関心を引き出すきっかけを作るのは、スタッフのその人に対する深い洞察と共感的な理解なのだ、気づかせてくれたように思います。</p>
----	---